

日高支庁管内小学校

S四五・五・一

学校数	学級数	教員数	校長	教諭	その他	児童数
日高支庁	七九	五二八	六八三	七八	五八六	三、九七〇
日高町	五	二二七	三三三	五	二七	一、〇五五
平取町	一三	六三	八八	一三	二七	一、〇五五
門別町	一四	七八	一〇二	一四	八六	一、〇五五
新冠町	九	四四	六〇	九	五〇	一、〇五五
静内町	九	九二	一一〇	九	一〇八	一、〇五五
三石町	六	三七	五二	六	四三	一、〇五五
浦河町	一二	九三	一一二	一二	一〇五	一、〇五五
様似町	三	三八	四六	三	四二	一、〇五五
えりも町	八	四六	六一	七	五三	一、〇五五

日高支庁管内高等学校

S四五・五・一

学校数	学級数	教員数	校長	教諭	その他	児童数
日高支庁	一〇	二五二	一〇	二二六	四	四、二二二
日高町	一	九	一	八	一	一、八二二
平取町	二	一八	二	一五	一	一、八二二
静内町	一	六七	一	六五	一	一、八二二
三石町	一	九	一	八	一	一、八二二
浦河町	一	六三	一	六一	一	一、八二二
様似町	一	三三	一	三一	一	一、八二二
えりも町	一	九	一	八	一	一、八二二

日高支庁管内中学校

S四五・五・一

学校数	学級数	教員数	校長	教諭	その他	児童数
日高支庁	三三	二二八	四〇六	二〇	三八二	七、〇四〇
日高町	二	一〇	一九	二	一七	一、〇五五
平取町	六	二七	五二	三	四九	一、〇五五
門別町	三	三二	五六	三	五二	一、〇五五
新冠町	五	一九	三九	二	三七	一、〇五五
静内町	五	七一	七二	三	六八	一、〇五五
三石町	二	一六	三〇	二	二八	一、〇五五
浦河町	四	三六	六六	三	六二	一、〇五五
様似町	二	一九	三四	一	三二	一、〇五五
えりも町	四	一九	三八	一	三七	一、〇五五

日高支庁管内各種学校

S四五・五・一

学校数	学級数	教員数	校長	教諭	その他	児童数
日高支庁	八	二〇	一一	一一	一	五、〇六六
日高町	一	二	一	一	一	一、八二二
静内町	一	一	一	一	一	一、八二二
門別町	一	一	一	一	一	一、八二二
浦河町	一	一	一	一	一	一、八二二
三石町	一	一	一	一	一	一、八二二
浦河町	一	一	一	一	一	一、八二二
静内町	一	一	一	一	一	一、八二二
門別町	一	一	一	一	一	一、八二二
日高支庁	八	二〇	一一	一一	一	五、〇六六

(各表北海道市町村勢要覧により作製)

一六 観光日高路

日高の自然景観と人文には限りない神秘をもっている。その史蹟、そして文化財、天然記念物、物語は蝦夷の歴史を秘め、いくたの謎を残しており、末だに胎動を続けている。そしてここに日高特有の体臭がある。それだけにその一つ一つに懐旧の情がそそられ、感慨はかり知れぬものがある。

以下管内の観光の対象となるものについて列挙しておいたが、末だ眠る観光資源も豊かであることが考えられる。従って観光資源の保護開発を積極的に推進することが今後の課題であろう。

そして日高支庁が言う「点から線の観光」を目標として管内を一本化した日高観光ルートの設定が望ましく、いかに各個の施設を整備されていても各町の観光対策がまちまちでは観光の広域化しつ、ある今日飛躍的進展はおぼつかない。それ故広域的な計画を打ち建てる方策を考える必要がある。

日勝峠(沙流郡)

昭和四十年秋十月、富川から約六十キロにある日高町と十勝の清水町が日高山脈を越えて結ばれ、帯広に通ずる日勝道路が開通した。そして沿道の雄大な日高山脈の自然美豊かな景観が、沙流川源流の溪谷美と共にクロージアップされ観光客は次第に増大した。ことに紅葉シーズンともなれば行楽の人々で森閑とした山間は急に生氣が満ちてくる。

峠に立って眼下に展開する十勝大平原が一望に収められるその豪華さは正に言語に絶するものがある。しかもその展望が日高・十勝と極めて対象的なものが一層感興をそそる。

今 日高町は「開発の町」として観光施設の造成計画に大きく意欲を燃やしているが、加えて観光企業の進出もあって明るい話題が作り出されている。

昭和四十五年、日勝峠から日高側のエゾマツ、トドマツの自然のままの群生林は、沙流川源流原始林として文部省から特別天然記念物として指定された。

既に林地の国道沿いに天然記念物案内板が設けられ、日高町は「観光日高」の貴重な資源としてこれが保護に本腰を入れている。

新冠発電所(新冠郡)

新冠市街地から約五十一歳の新冠川上流に北海道電力株式会社が堤に巨大なロックフィル式を採用したダムを建設している。完成すれば水力発電では全道一の施設で日高の電源開発事業の中核となるもので、総工費百二十五億七千万円、出力二〇万キロワットの発電所で五十一年度完成の予定である。完成後は周辺の自然景観も一変して観光価値としても十分とその日が待たれている。

奥新冠のダム（新冠郡）

北海道電力株式会社の建設したアーチ式ダム、水力発電では現在日本一の施設、日高電源開発の一環を示すもの、自然環境はすばらしい美しさである。またこのダムが幌尻の登山口でもある。

染退城址（静内郡）

シビチャリ川（現静内川）東岸の丘の上、今の真歌山（不動山ともいう）に英雄シャクシャインの恨みをこめて、そよぐすきに過去を語るシビチャリ城の址がある。ここ、民族的英雄が鎧をけずったシビチャリ城は五間幅の濠が二重三重にめぐらされ、堅固なことは、当時近隣にその比を見ない程だった。十数年前には、今は畑になっているこの城址に刀剣や、黒曜占の矢じりが数多く発掘されたが、今はわずかに残る三間ばかりの濠の跡に、かつての全盛がしのばれるばかり、人の世の栄華と衰退の様を目のあたりに見る感がある。（畑中武夫著日高路を行くの一節）

昭和四十五年静内町の開基百年に当たり、シャクシャイン顕彰会はこの真歌山の染退チャシを中心にコタンの秩序と平和を守った先住者シャクシャインの労苦を偲び、その霊を慰めると共に永久にこの史実を伝え民族の象徴として彼の偉業をたたえるため英傑シャクシャイン像の建立を計画した。建立場所は真歌山広場のシャクシャイン城址のすぐ東側、内堀と外堀に囲まれた三百平方メートルの敷地。そして同年九月十五日像の除幕式がこの場で行われ、ついで古式ゆかしい祭りとなって城址は民族の祭典一色に染まった。立像三・五尺、エクネクワ（杖）の先まで四・二尺。先住民族の群像を背にエクネクワを頭上に高くさげ、天をにらみだるすばらしい勇気と行動の持主シャクシャインの勇姿は、アイヌの指導者として逞しい野性美を遺憾なく表現している。製作者は札幌在住の彫刻家竹中洋氏である。

蓬萊山……一名カムイコン（三石郡）

三石市街から東北約四歳の所に三石川に沿ってそびえる山で、むしろ遠望がよいといわれている。全山は奇岩快石、海拔二百十余尺の岩山で、紫つ、じや、しゃくなが咲き誇り、その他珍木が繁っていると言われ、その神秘的な風情を示して、感興がことの外

深い。アイヌはカムイコン（神の住む所）というが、この地方の人は蓬萊山という。例祭ともなれば古風ゆかしいアイヌ儀式が行われる。

この山に秘められた伝説は次のように詠まれている。

○ 捕られたる海のけものは土人らに焼かれて 破れて山となりしと

○ 土人らに食み残されし肉塊は 木生え草生え山となりしと

○ 焼かれたる彼の怪物は幾代経て 化石となりて山となりしと

○ 此のおの神住む山の木を伐りて 三石川のもくづとなりぬ

日高種畜牧場（浦河郡）

日高幌別駅より六歳の地点に全国的に著名な西舎種畜牧場がある。ここは昭和四十年以前は優秀な種牡馬と牝馬をあわせ数百頭を有し、創立以来五十有余年馬一筋に専念して来たが現在は乳用子牛の集団育成に転換され、その規模は実に東洋一と言われる。

牧場入口までは舗装された直線道路で国鉄バスの便がある。沿道一筋の両側は西幌別農業地帯で山の麓に、川のほとりに、畑の中に点々と見える農家は色とりどりの屋根を見せ、木々に囲まれたわらに 舎やサイロを配して調和のとれた豪華さを示している。

日本競馬史上不滅の金字塔を打ちたてた五冠王シンザン繁養の牧場もある。

牧場入口から一直線に伸びる十間巾の坦々とした道路に魅せられ、両側に程よい間隔に植えられた約三千本の山桜に心を奪われる。子牛の群を見ながら春の日の咲き乱れる美しい眺めには興趣のつきぬものがある。

初夏は鈴らん狩りの人の群で賑わい、秋は紅葉をたのしみ、冬は白雪の曠野に物思うなど、とりどりの自然景観をたのしむことができ、観光日高路には欠くことのできない景勝の地であり、行楽の地でもある。

親子岩又は夫婦岩（様似郡）

景勝の様似を象徴する海中の大小三個の奇岩は、仲よく相寄り相添うているので誰言うともなく夫婦岩（親子岩）と名づけられた。汐干狩のシーズンになるとこの附近に集う人で大変賑わう。様似小唄の一節に。

「エンルム岬をかわせば様似、名さへ嬉しや、さても嬉しや夫婦岩、ハアアなどと鳴れ鳴れ潮しぶき、どんどこおいらの胸も鳴る」とうたわれている。

観音山（様似郡）

様似市街国道筋の丘のような山が観音山で、ここには西国三十三番の仏像や竜神の祠がある。この山上からの様似港の眺望はとて
もすばらしくまさに一幅の絵を見るような感じがする。春は全山桜が咲き乱れ、花見に浮かれる人は数知れない。
また、その昔様似アイヌと日高アイヌの雄シヤクシャインとが戦った古戦場でもあったと言われ、今も石垣の砦が八重の桜に埋も
れているという。

その昔の軍を偲ぶ石垣に

さくら吹雪は散りかかるなり

等謝院（様似郡）

文化元年、幕命によって初代住職の秀暁が開いた天台宗のお寺で、本道の三官寺の一つとしてその格は諸大名に準じたものである。
昭和十年四月、北海道庁より史蹟顕著の故で保存物として指定された。

今も残っている仏像や軸物に接する時、泌々と懐古の念を禁じえぬものがある。今日まで往時の建物の一部が町の人達の篤い信仰
の下に記念物として残され昔の面影を偲ぶことが出来たが、最近時代と共に建物は老朽化した。

しかし建立時の原形そのままの護摩堂保存の運動が活発となり、檀徒を中心に移転新築に踏切り場所を本町汐見台と決定、昭和三十
九年十一月から着工四十年六月完成を見るに至った。九月様似町議会は、町文化財保護条例を制定し、重要文化財第一号として指
定した。

幌満川仙境（様似郡）

日高を不夜城化しようと自負する幌満発電所はこの川の上流にある。

発電所開設史をひもとくと人間努力の結晶であることを痛感する。

下流の国道近い左側の木々で被はれたところは秋の紅葉でその名も高く、京都の嵐山になぞらえて日高の嵐山ともいう。

この川の流れに沿って上流にさかのぼると、その自然景観は幽すいを極めてまさに一大詩境といつてよろしく、人々はそのすばら
しさを讃えて幌満峡といっている。

日高耶馬溪（様似郡）

このあたりの海岸は干潮ともなれば数十メートルにわたって岩礁が露出して汐干狩のたのしさを味あわせてくれる。渚に近い海中に点在
する大小の奇岩怪石、正に天下の絶景ともいふべき景観が繰りひろげられている。

点々と白い岩肌を見せているのは鵜の鳥岩といい、岩上に棲む鳥の姿が見られる。

また、道に沿って山側の巨岩、数十丈の断崖をなしているこの壮観は往時の難所を想像させる。日高耶馬溪はこの附近一帯の景観
を総称しているのである。

アポイヌプリ（様似郡）

様似の東方紫に煙る高い山が高山植物で名高い海拔八〇〇余メートルのアポイヌプリである。アポイというのは白樺のこと、ヌプリは山
のことで「白樺のある山」の意である。

また、アベヌプリとも言つて「火の山」という意味もある。ヒュッテの設備もあり、アポイ樹木園もある。登山は婦人・子供もた
やすくでき、高山植物は九百数十種を数え全国第一と言われている。全山一帯シヤクナゲや山ツツジがあり、有名な日高草をはじめ
アポイハハコ、アポイキンバイ、アポイアズマギク、ハクサンチドリ、エソコウゾリナ、アポイギキョウ、サマニユキワリ、ヒダカ
イワザクラなどは高山植物の一例である。

ここは特別天然記念物として保護され一木一草といえども採取することはかたく禁じられている。

山上からの眺望はたえようもなく、晴れた日などは海上遙かに噴火湾を距てて駒ヶ岳の噴煙も、羊蹄の峰も眺めることができる。
また、眼を転ずると日高連山の雄姿を仰ぐこともでき、また、東にえりも灯台が見渡され、眼下の幌満の流れが汪洋として壮快な
感が泌々と胸を打つのである。

なお昭和四十七年様似町営のマムシセンターの養殖棟がアポイ山麓に設けられた。

エンルム岬（様似郡）

様似市街地の中央部から海に突出している周囲約一頃、高さ約八十メートルの純然たる岩石のみの岬であって、様似町文化の発祥地で様
似町にとっては最も貴重な文化財であり史跡である。往昔ここはアイヌのチャシであったと言われ、岬の頂上からは石器類が多数発
見される。景観・展望の恰好の場として久しく一般から親しまれていた。

しかるにこの岬の岩石が良質で堅牢なため港の修築工事用礎石、浅海増殖の投石用石材の採石場として一時はその側面が大量に削

りとられたため、昔の面影が次第に失われるという憂慮すべき状態となった。そこで町民はこれを惜み、原形を保存すべしとしてその声が次第に高まり、産業開発に役買つてはいるものの、史跡保存、観光という面と考合せいかに処理していくかについて慎重に検討している。

なお、昭和四十六年八月から「アポイ火まつり」が岬を会場として行われ、夜空を色どるかがり火に賑わう。これは昔アイヌがアポイ岳で火を焚き鹿の豊穡を祈った伝説にもとづく行事である。

えりも道立公園 (幌泉郡)

昭和二十五年八月、えりも岬を中心として様似と広尾の両郡の一部にまたがる四万五千ヘクタールは道立公園に指定され、ここに観光えりもの歴史がはじまった。

岬に通ずる東西の日高路の景勝と史蹟は旅情を慰め、さらに岬の景観は行旅の人の魂を捉えてしまう。切り立った崖、荒い波、海中にのびる岩礁のすべてが大きな海を背景とした荒削りの野性美たっぷりな雄大な自然であり、海拔七十二メートルのえりも巖頭に君臨する岬の灯台が印象的であるからである。

昭和四十六年八月、島倉千代子が歌ってヒットした「えりも岬」の歌碑も展望台近くに建設され、行旅の人々の思い出を一層深めることであろう。

毎年シーズンともなれば観光客で岬市街は急に賑い、えりもの町も明るくなって、さい果のこの町も非常に近代的な色彩が濃くなってくる。

百人浜 (幌泉郡)

えりも岬から東、遙かに見えるのは百人、浜別名赤土浜という。

この海浜は草原と腐蝕黒土が風雪のために押し流されて露出した赤土とが交互して、こゝから庶野まで全長一里余に及んでいる。

その昔南部藩の御用船が遭難して乗組員百名が飢寒に苦しみ遂にこの浜の砂中に屍を埋めてしまったという悲しい物語がある。

その後文化三年この死を悼み供養のためと、心ある村人が一石一字の塔という碑を名も知れない沼辺に建てその冥福を祈った。

寥々たる砂浜の景観の眺望に、道々えりも公園線の舗装も逐年延び、五十年度に完成するというし、百人浜のキャンプ場の整備も急がれている。サンショウウオの棲息観察沼もできて観光にささやかな役割を果たしている。

黄金道路 (幌泉郡)

国道は百人浜を過ぎて庶野に通じている。前には太平洋の蒼波を望み、背後には日高連峰を眺めながら、庶野から広尾に海沿いに三十三里にわたって担々たる舗装の道路がある。

この道路は巨費を投じて完成されたもので有名な黄金道路で日勝連絡道路である。

行旅の人が一度車でここを快走するならば、次々と繰り展げられる千変万化の奇石快石の風光に、国道筋の岩崖を下る小さな滝に岩洩る清水に、時にせききれいの遊ぶ風致に先ず目を奪はれ、魂を奪われるであろう。

ここは昭和九年数多い生命の犠牲と、数年の歳月と、そして莫大な費用によって完成された。その昔海中に奔る断崖に、道行く人の難険として大きな不安と恐怖は想像もおよばなかったという。

このことは道路に迫る断崖や、巨岩、数多くのトンネルなどが確かな事実として昔を物語っている。波にさらわれ、はかない一生を終えたいくたの悲しい思い出の余りに多かったであろうことを考えながら、拓けゆく技術の力に往時を回顧し、感銘量り知れぬ時代の変遷を覚えるのである。

ともあれ開通以来三十余年、莫大な建設費を要したこの道路も、時に降雨による崖くづれと時代による欠壊で、今日その補修費が年間一億円と言われ、その名に違はず間断なく黄金を食っている。

けれども年と共に見違えるほど整備され、大切な観光資源として片道一時間十五分で、バスは路上のエクボに軽い動揺を覚えながら愛嬌よくこの道路を走っている。

沙流郡

○日高国際スキー場

○平取町二風谷のアイヌ文化資料館

○沙流川沿岸

○空飛ぶ円盤の聖地ハヨピラ

アイヌ民族の始祖オキクルミが空から降臨して彼等に生活の法を教えたというこの神を祀るところ。

○義経神社（義経公園）

新冠郡

○トド岩

○日高判官館青年の家

日高九町の組合立の日高管内青年の研修の場。

○幌尻岳

静内郡

○新冠種畜牧場二十間道路の桜の並木

樹齢四、五十年、全道一の評がある。

○竜雲閣

明治四十一年皇族、政府高官の宿泊所として建設された。北海道百年遺跡に指定されている。

○双川の溪流

○御殿山ケールン群

先住民族の墓、昭和二十七年発見

○静内ダム

夢の人造湖、市街から二十キロ余。

○東洋一の軽種馬センター

○ペテガリ山荘

○春立海岸の潮干狩

三石郡

○円昌寺山門

浦河郡

○日本中央競馬会日高育成牧場

○浦河町森林公園

○オロマップキャンプ場

○浦河郷土博物館

様似郡

○平鵜の五葉松（自生北限地帯）

幌泉郡

○豊似湖（馬蹄湖）

日高管内唯一の自然湖

○庶野の桜

十種を超える樹齢三百年を経た自然樹である。

終りに日高の郷土芸能として

三石町の越前踊り しし舞

日高町の日高山岳太鼓

新冠町の新冠判官太鼓

一七 計画と開発

拓植計画と地域の開発

北海道第一期拓植計画が樹立されたのは明治四十三年で、十五カ年にわたり、事業費は七千万円であった。

その内容は、植民・産業・道路・橋梁・土地改良・河川港湾に対する莫大な計画であった。

しかしながら明治の末期から大正初期にかけての世上の不況と、加えて日露戦争後の民力涵養のための宅地価格の修正、営業税、